

## 第1号議案

### 公益社団法人土岐市シルバー人材センター 令和2年度事業報告

令和2年度は、令和2年1月にWHOが新型コロナウイルスを確認して以来、国際的な感染拡大により、国内では、4月に「緊急事態宣言」が発出され、不要不急の外出が徹底的に控えられ、サービス業を中心に大きな痛手となりました。

土岐市シルバー人材センターの受注業務におきましても、宣言期間中には公共施設の閉鎖、介護施設業務の縮小などで受注業務の休止が相次ぎました。

幸い、会員等において感染報告もなく、解除後には、一部縮小や制限はあるものの徐々に受注業務が再開してまいりました。

しかし、秋の声とともに再び感染者数が激増し、感染者数が毎日最多を記録するなど、厳しい年越しを迎え、令和3年1月13日には岐阜県に再び「緊急事態宣言」が発出され、2月21日に解除となりましたが、変異種による感染が報告されるなど、未だ予断を許さない状況です。

冷え切った経済に呼応するように多治見管内の求人有効倍率も低迷を続け、令和元年11月に2.27倍であったものが、令和2年11月には、1.36倍となりました。そうしたコロナ禍における社会情勢のもと、シルバーの理念である「自主・自立、共働・共助」を念頭に中・長期計画の目標である会員拡大に取り組んできた結果、11月以降の入会説明会には、多くの参加があり、会員数は、3月末では、昨年同月比でプラスとなりました。

しかし、シルバーの事業拡大につきましては、コロナウイルス感染のあおりを受け、企業訪問や交流会の中止などの影響で、シルバーへの仕事依頼に結びつくような結果は得られませんでした。今後はコロナ感染の動向を注視しながら、直接各企業に出向いて就業開拓をする必要があります。

安全就業については、事故・怪我防止の啓発に努めましたが、今年度も飛石による物損事故を減らすことが出来ませんでした。

事業実績は、会員数248名、請負・委任による受注件数2,076件、契約金額112,364,732円、就業延人員21,730人日でした。新型コロナウイルスの影響を大きく受け、前年度と比べ、会員数は5名増となったものの、受注件数で89件、契約金額9,476,482円、就業延人員1,861人日の減少となり、会員数を除いてはいずれも事業計画の目標には至りませんでした。派遣事業では、契約金額25,154,124円、就業延人員4,967人日、派遣収益2,661,984円でした。前年度と比べ、契約金額1,297,241円、派遣収益199,962円の減少、就業延人員は167人日の増加となりました。

今後もシルバー発展のため、会員及び職員一同でコロナ感染に細心の注意を払いながら、会員拡大と就業開拓、安全就業に取り組み、当センター事業の一層の推進に努めて参ります。

主な事業実績は次のとおりです。

① 会員数	248名
② 就業延人員	21,730人日
③ 契約金額	112,364千円
④ 受取事務費	8,004千円
⑤ 就業率	73.8%
⑥ 派遣事業就業延人員	4,967人日
⑦ 派遣事業契約金額	25,154千円
⑧ 派遣事業受託収益	2,661千円

## 1 普及啓発事業

- ① 公共・民間等現場に出向いて、より一層の理解と信頼を得られるよう努めました。
- ② 入会者説明会を定期的に月2回開催した他、希望者の要望に応じて臨時説明会を通年で実施しました。
- ③ 機関紙「シルバー土岐」を年1回市内に全戸配布し、シルバー事業の紹介、会員募集の呼びかけを行いました。また、会員募集チラシにつきましては、今年度より新聞折り込みで行いました。
- ④ 「親子育児教室」、「高齢者サロン」のチラシを年1回市内に全戸配布して市民の方への普及啓発に努めました。
- ⑤ ホームページを活用し、入会促進、受注拡大に努めました。

## 2 会員の自主・自立と意識の高揚

- ① 役員の責任分担性の徹底を図り、担当分野についての把握・指導に努めました。
- ② コロナ禍により、地域集会やボランティア活動などの行事が中止となり、例年の活動はできませんでした。

## 3 安全就業対策

- ① シルバー事業において最も重要な課題であり、コロナウイルス感染に十分注意しながら、特に就業時の健康状態は自分自身で十分把握していただき、事故・怪我防止の啓発に努めました。
- ② 安全はすべてにおいて優先されることを会員一人ひとりに周知し、安全就業の徹底を呼びかけました。
- ② 安全パトロールを全30か所で実施し、作業方法等について安全指導を行いましたが、令和2年度は計21件の事故が発生しました。
- ③ 県連合主催の安全就業推進大会、安全就業対策研修会へ参加しました。

#### 4 自主財源の確保

- ① 事業運営費収入の根幹である運営費補助金の確保、コロナ禍の厳しい中、事業費収入の確保を公共、民間、家庭に理解賛同を得られるよう周知し、就業の確保に努めました。
- ② 派遣事業について、公共・民間ともに働きかけ収益の充実に努めました。

#### 5 社会奉仕活動の推進

- ① 各地域での奉仕活動の実施  
今年度はすべて中止となりました。
- ② 地域の行事、公共団体等への事業参画として、土岐市社会福祉協議会主催の福祉まつりに参加していましたが、中止となりました。

#### 6 新規開拓事業の推進

- ① 多様なニーズに対応できる体制づくりを行い、新たな就業機会の確保に努めました。
  - ・機関紙「シルバー土岐」にて情報提供及び会員募集をしました。
  - ・就業相談を開催し、就業を希望する会員に適宜対応しました。
- ② 新総合事業に積極的に参加できるよう会員の獲得養成に努めました。事業への参入は市役所担当課と協議中です。

#### 7 適正就業の推進

- ① 事業理念、就業条件等、会員に平等な就業機会を提供するため、意向調査に基づきできる限りのローテーション就業を実施し、ワークシェアリング（分かち合い就業）の精神で会員の長期的・継続的・就業の解消や未就業会員の解消を図りました。
- ② 法令遵守の観点から労働者派遣法に基づいた適正就業を目指し、派遣実施事業として努力しました。
  - ・県連合会主催の安全就業推進大会に参加しました。
  - ・県連合会主催の安全就業対策研修会に参加しました。

#### 8 介護予防事業及び福祉施設の後方支援となる事業

- ① 身近な人に役立つ「人にやさしい介護の基本」を念頭に介護に役立つ料理教室、新総合事業への参入や介護補助員の養成を目的とした介護講習会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延により中止いたしました。
- ② 高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう地域での生活を総合的に支援するため、コロナ感染防止に努めながら高齢者サロンを開催しました。

・泉地区	4回開催	6名参加	・土岐津地区	6回開催	16名参加
・駄知地区	3回開催	14名参加	・肥田地区	5回開催	4名参加
・妻木地区	5回開催	18名参加	・下石地区	6回開催	7名参加
合計	65名参加	動員会員数延べ	135名		

## 9 子育て支援事業

① 託児・家庭での育児支援、産前産後の支援、育児教室等の支援事業の推進を図り、地域の若い親さんの多様な要望に応えられる子育て支援を目的に、コロナ感染防止に配慮しながら育児支援、産後の支援、育児教室、子育て相談等の支援事業を行いました。

- ・ 0～3歳児を対象に5月～翌年3月の第3水曜日に親子育児教室を計画していましたが、多くの教室が中止となる中、コロナウイルス感染予防の動向を踏まえ、細心の注意を払うことで、10月の運動会、11月の子供と楽しむヨガ、3月の人形劇を開催しました。  
親子延べ59名参加

② 各地区で開催される高齢者サロンと合わせて、子育て応援サロンを開催予定でしたが、すべて中止となりました。

## 10 高齢者世帯生活サポート事業

高齢者が在宅生活を営む上で、若い世代であれば簡単な家事でも支援が必要な高齢者にとってはままならない、ちょっとした日常的な作業を、元気な高齢者（会員）が有償でサポートすることで、住み慣れた地域で安心した生活ができるようワンコイン事業を実施しました。

- ・ワンコイン100円 26世帯 820回
- ・ワンコイン500円 9世帯 209回

## 11 高齢者世帯見守り事業

高齢者の多くができる限り住み慣れた地域、自宅で暮らすことを望んでいます。センターでは、安否確認や声かけが必要な高齢者に対して定期的に訪問する高齢者世帯見守り事業を実施しました。

- ・見守り 1世帯 20回